



俳諧叢句古今撰 上



英華辭書の大人輯

英華辭書古今撰

江崎なる町に及堂英平著



およそ一冊を以て英華辭書とす
柿の本の如く一冊を以て英華辭書とす
よからず英華辭書の如く一冊を以て英華辭書とす
一冊を以て英華辭書の如く一冊を以て英華辭書とす
よからず英華辭書の如く一冊を以て英華辭書とす
一冊を以て英華辭書の如く一冊を以て英華辭書とす
よからず英華辭書の如く一冊を以て英華辭書とす

命を以てしむるに由りて振に愛するに
もたはせんより勉に力なりと云ふ事
心もくもきく事もまじくもたはる事
此振のちも 枝々之にすうもきく
かゝ人の観る事なほ行いし事なほ

了りて 歳種日 雲山 斎多 抄る

俳諧古今發句撰

題言

一此冊もも伊勢の巻紙波間かよ分る深く求り
和らむの物乃志げを世に想く取廣げも中
あらぬと曰時よいつ世を悉く歌をいふ事
其能く先所昔里の歌 世のまよ打極ら終
らるるにやまもくうと云ふ事よもいふ
指ひ並あらむと云ふ事よもいふ事

あを駝の嘴のさし〜〜〜地とひひきき
あ〜〜〜物と〜〜〜人怪〜
こや〜あ〜

一今御所の白集年〜お出く庫あつ〜と車あ
あ〜〜〜中りふか〜〜〜緘本と板〜〜
不朽ふ傳人と〜〜〜衣と〜〜〜法たの昇事
人と駝〜んと〜〜〜ゆ〜〜〜の仕業あ〜〜
る〜〜〜と〜〜〜あ〜〜〜のな〜〜〜志〜〜
地〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

俳諧古今發句撰上

蕪庵蟹守著

春部

立春	天地也	空あも	業ある	春の名	標良
	あま	袖の大	和ふ	長〜日	曉臺
	信の	ひめ	を	ね	夢太
	浦乃	ま	ち	〜	涼帝
	え	や	あ	の	更

カヒ 葛里
 ナチ 素榮
 江戸 道彦
 全 鶯笠
 京 文左
 芳_二 昔三
 カヒ 蟹守
 京 月居
 ヲ_二 士朗

子曰 君のよはれ松をふらしたるものりか
 君の代々一糸の引うもるよはれうか
 子は女あて麻の心りさきき
 夷也小松去年のまは白ひさき
 松の根千葉まき里ねるの日記
 従儀とてちう〜の入道は小松安
 鶯笠
 護物
 素榮
 昔里

葉舟

かゝるもの夢々ぬ代座も葉揚

夢太

七のや袴の裾はうもむをん

蕪村

きんぐらふやわらわもつらあか

樗良

も葉はも人後今ぬ紙を川

曉堂

裏向もあはれの中は此つらあか

ムツ
乙二

も葉はもこのたあもさうじを

江戸
蟹守

おのあつり指おつらぬも葉あか

碓嶺

信者へ初きあももても葉揚

セシ津
桐栢

少女等うまなつこ娘のそら船が

葛里

も葉の初はあつらもあつり

道彦

万歳

万葉や春を鶴巻のまあつら

素檠

も葉やあつ代よあつらうもあ

蟹守

も葉やあつ物もあつらうもあ

道彦

も葉はあつらうもあつらうもあ

イセ
椿堂

正月

正月と云々を人あつ

蘭更

三日月の影ふありき星小織人

樗良

三

白月ちみちるる星をく月松成

道彦

白くち影くやうか住あうぬ

蟹守

白月やつらきまうら身の完

素架

白月さきくくひぬのゆのぬ

苜里

養父入

養父入や木履あかかへんをぬ

曉曇

養父入のきやふきのきつ月

葦村

霞

養父入やちかき足着どうあけて

士朗

養父入のきつものるやあけしぬ

乙二

養父入乃あけしひぬやされなる

岳略

霞の影の影の影の影の影の影

夢太

霞の影の影の影の影の影の影

蕪村

霞の影の影の影の影の影の影

道彦

七言 春風吹く中は是なり
かきむりやあきし杖を垣のみ
いそいでいそいであきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ

蟹守
卓池
秋挙
有斐
静管
漫々
蕉雨
葛里
完来

春風

春風吹く中は是なり
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ

蘭更
曉堂
二柳

あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ
あきし杖を垣のみあきし杖を垣のみ

蟹守
斗入
莫洞
寥松

春風如川流不息
暮色如雲散無常
昔人如夢覺
今人如夢覺

護物
尊並
慈雨
道彦

若草 春草如夢覺

乙二

春風如夢覺
暮色如雲散
昔人如夢覺
今人如夢覺

道彦
大坂
井眉
寥松

梅

梅如夢覺
春風如夢覺
暮色如雲散
昔人如夢覺
今人如夢覺

園更
榑良
大江丸
五明
青羅
晚基
燕村

二月のや大いさうめのも
 梅のさかすか梅のさかすか
 梅一掃さうめのもさかすか
 まれは梅のさかすかのさか
 おうけく人さかすか梅の
 梅のさかすか梅のさかすか
 梅咲や赤梅さかすか梅の
 梅のさかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか

江戸 應々
 全 對山
 京 升六
 全 十文
 大坂 自樂
 京 烏項
 全 真貫
 行脚 物成
 草公

梅のさかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか
 梅のさかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか
 梅のさかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか
 さかすか梅のさかすか

江戸 應々
 全 對山
 京 升六
 全 十文
 大坂 自樂
 京 烏項
 全 真貫
 行脚 物成
 草公

勝もあつたふののさそ梅の月
梅もくはのさふわいあふ月松の
梅も月な中つくあふいよさ松の
旅人ふ野うめは梅咲あふま
枝あふしあふえい梅のさ
み七輪久くく梅は茶のさ
梅のさ茶のゆき梅のあふ
ちあふ川松の所陽や梅のさ

七

カ七 椿胎
キウ 伯先
江戸 長裂
ムツ 鏡船
蟹守
月居
道彦
乙二

黄鳥 夢のちあふあふ初をうね
黄鳥はねはくかあや梅のさ
うらまはあふあふあふ白の上
黄鳥や人あふあふあふのさ

樗良
几董
閑更
曉臺

鳴くく黄鳥の休よとあふりあ
黄鳥はあふりあふをぬれあふく
黄鳥のあふりあふをぬれあふぬ
ちあふあふあふあふあふあふ

士朗
葛里
成美
蟹守

まればしつゝいふはふもあはれ
うらみあはれ初春あまのり
静あり先雪あはれ
まのきさきさき
うらみあはれしつゝいふはふも
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき

乙二
蒼虬
椿胎
桐栖
江戸 對山
カヒ 傑甫
スハリ 盛青
京 車蓋
雪雄

柳

まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき
まのきさきさき

完来
道彦
青羅
几董
燕村
月居
成美

歩り種 桑ふつとまき柳成
えつて居るをさつとまき柳成
二人とまき柳の
まきの人これ柳よかられま
あまにまき柳の
采と川あままき柳の
柳あま川ふかまき柳の
柳まき柳まき柳まき柳
まき柳のまき柳のまき柳の

蟹守
蕉雨
日人
卧史
玄蛙
岱青
椿胎
雪雄
士朗

春日

まきの日や路人のまき柳成
まきの日や柳のまき柳成
まきの日や柳のまき柳成
まきの日や柳のまき柳成
まきの日や柳のまき柳成

道彦
昔里
園更
暁基
蒼虬
玄蛙
寥松

まきの日や松まぢぢくあそび
栞の戸乃まぢぢくあそび

道彦
護物

春水

鳥帽まぢぢくあそび
まきの日や松まぢぢくあそび

英村

まきの日や松まぢぢくあそび

陶更

人まぢぢくあそび

成美

まきの日や松まぢぢくあそび

兼カハチ拒

まきの日や松まぢぢくあそび

雪雄

まきの日や松まぢぢくあそび

月居

春夜

まきの日や松まぢぢくあそび

士朗

まきの日や松まぢぢくあそび

蒼虬

まきの日や松まぢぢくあそび

蟹守

まきの日や松まぢぢくあそび

素朶

春海

まきの日や松まぢぢくあそび

莖村

うねくも 鷗くも 舟をたの海
まきお海蟹乃らう 志くまき

寥松
蟹守

春雨

まきのや 曉くは 秋をす 河の雪
を海もや くれあ くと なるり 雪

夢太
菫村

まきのや 舟の 舟ふら 舟の 海の 雪

乙二

あきの 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

葛里

あきの 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

寥松

まきの 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

一之

秋の 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

對山

まきの 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

燕雨

あきの 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

道彦

八中

切の 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

曉堂

舟の 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

白雄

舟の 舟を たる 舟の 舟を 舟の 舟

道彦

蟹守いのちり

蟹守

涅槃

涅槃今也いのちり

曉基

山もやいのちり

栲良

あゝいのちり

首里

懐く袖いのちり

蟹守

椿

椿いのちり

椿堂

桂平いのちり

雪雄

只いのちり

未耜

信いのちり

道彦

教いのちり

首里

臘月

指いのちり

蕙村

研いのちり

青羅

春月

春いのちり

葛里

君等よ切くあはれまじりて暮のこ

蟹守

お月よき萩のありとぬよまき月

益青

まの月あはれおとそまのうへ

^{スリ} 羅城

業平の一期ふゆりりまの月

道彦

人のまじりてゆゆしきまの月

素染

まやがし柳よとそまの月

成美

出代

出代や君をまじりてはる大切

曉登

出代や花をみればはる様所

夢太

出代て花をみればはる様所

葛里

お代も柳のまじりてはる様所

菱南

かき

果しあやと花をまじりてはる様所

曉登

まの月の影をみればはる様所

几董

連の影をみればはる様所

蓋村

そおしをまじりてはる様所

道彦

蛙啼也投政中くと内なる
 ちむ若れ自よさうあり吟蛙
 月毛の夜あさし〜ゆる蛙の
 湖く片はくげ〜あく蛙
 古はき蛙のそゆるあのみか
 淋〜さ人あさよれ鳴かり
 初とみおあとり〜吹ハ紙のそれ
 我身よ袂ふ入んとみ小とみ

蟹守
 乙二
 昔里
 岳輅
 寫笠
 蕙雨
 蘭更
 樗良

蝶

狭 慈由一蝶ひさし〜い傍首
 一夏のあ〜ん〜り 蝶あ〜り
 ち〜の〜い〜い〜い〜い〜い
 啼〜あ〜さ〜れあ〜れ〜い〜い〜い
 ち〜の〜い〜い〜い〜い〜い
 境の〜い〜い〜い〜い〜い
 山〜い〜い〜い〜い〜い
 蝶〜い〜い〜い〜い〜い

几董
 夢太
 昔里
 道彦
 長高
 椿胎
 太栞
 潤古

大坂
江戸
三州

しほのうらみよき城のき城のき

士朗

雅子

旅人のやまこひありと雅子に
魂のこころよ大工や雅子の声

京本
莖村

うらみのあはれも果し雅子に

月居

垣てまをり月をまき

天老

ゆきまげしゆきまげしゆきまげ

蟹守

妻の雅子に雅子よまへしゆきまげ

首里

帰雁

きのふより今日まで雁のあはれ
妻の雅子にまへしゆきまげ

莖村
栲良

初雁のあはれしゆきまげ

道彦

追まれしゆきまげ

菅差

しほのうらみよき城のき

護物

くさのうらみよき城のき

心犯

まをり月をまき

月居

田螺

物りり田螺のりりりりり

イヨ 樗堂

かくまのまきとて鳴田螺りり

スリ 少女

猫意

狸あもよ〜ぬ日のあも猫の意

凉傘

核ふむおあもあ〜〜猫の意

蓼太

猫の意道おあもあ〜あ〜れ〜

樗堂

猫この意〜の〜あ〜あ〜れ〜

葛里

とのを根の意〜あ〜ひ〜猫の意

道彦

夏〜のあ〜あ〜あ〜人孫の猫

蕉雨

雪〜のあ〜あ〜あ〜猫の意

蟹守

乙鳥

つ〜のあ〜あ〜あ〜そ〜ら

曉臺

大〜のあ〜あ〜あ〜あ〜

燕村

四月のあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

大坂 江戸 井眉 芝山

夢南
道彦
子鞋をくくんとあつて
しきのつねに丁場へ

雲雀
曉亭
ついでにやまかへへ

素丸
ちよとあつて

護物
ちよとあつて

昔里
ちよとあつて

蟹守
ちよとあつて

蕉雨
ちよとあつて

菜花
蓼太
菜のちよとあつて

一音
菜のちよとあつて

粟丸
菜のちよとあつて

道彦
菜のちよとあつて

草丸
菜のちよとあつて

乙二
菜のちよとあつて

春野

春の風を手に抱きしめ

葵亭

春野

松の木乃下の酒をのむ

真貫

眼をこぼし涙を流す

成美

春山

又も春の山をめぐり

園遊

帆を張る舟のまはる

完来

舟をこぎゆく舟のまはる

し二

紅梅

紅梅やとくは甲斐ののけ

道彦

紅梅や陸尺体む門の

護物

紅梅を寺院のまはる

真貫

籬

さくらもめは色をひあ

燕村

ついでに色をひあ

夢太

桐の戸を袖さく

月居

桃

かゝりぬ能く一期をたそひ羨
 龍系宗室を縁とけ牛らるる
 龍のちの首南もわく節あり
 白くもいそいそひ帯や桃のち
 ちのちあまのまゝくせ業あり
 西もあく突あつちのちのち
 柳のちのち年係もいそ送彦

京 五芽
 カ、 斗入
 樽良
 大江丸
 蘭更
 送彦

花

杯のちのち出へるちのち
 世ふちれち系ちのちのち
 白くもいそいそひ帯や桃のち
 柳のちのち年係もいそ送彦

大坂 奇淵
 蟹守
 蒼笠
 苜里
 蓼太
 蕪村
 五明
 青羅

賢やとぬの情うへ年未済
いふるの^カほむうありねのむ
かる中ふ帰る恋ありあはうそ
あはうこあはうかあはうは
きあはうきあはうあはうは
帰るこく春自れささあはうのふ
かあはうれあはうねのからあはうり
孫ふんく孫くさあはうのそあはう枝

道彦 葛里 成美 栲良^カ 乙二 蟹守 岳輪 椿堂

山あはうかかあはうあはうの中
あはうあはうとねあはうあはうあはう
あ一本あはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう
あはうあはうあはうあはうあはう

椿胎 心北 大坂 星渡 蛙文^カ 少汝 京 其成^{五州} 東陽 静管^カ 一飛

赤く染つるう甲しん此西と云
 るも勝るるをさしお持せし
 茶の三日枝足地つぬ人せし
 ちのむさしのふあそ二百五
 茶焼くあやちをく流の
 ちやくともああるあのかは
 茶のぬめを吹よつた地ゆりし
 茶れハ丁冬あより花ふあひま
 ちのあつちをりさたぬぬ彩

千 顯 アミ
 真洞 カヒ
 雪雄 スリ
 塊翁
 太郎
 護物
 嵐外
 萬和 大坂
 昔三

かの海生一日それのあつち
 糸くふあのをぬうのかをさり
 ち子あきぬくみ降あ松のぬ

完来
 士朗
 月居

左久良

伊乃してあふありしち様うぬ
 ちのこふはまうれは信む風信あり
 旅人の集よるをさしちのり様
 ち様や三味線強く人通り
 山行やあつちをりしち人通り

樗良
 五明
 莖村
 蓼太
 蘭更

つし〜〜〜をさくをさくハある様成
 本のも〜〜を定むれハある様成
 あり〜〜をさくや〜〜のり〜様成
 人の〜〜をさくハ様成のり〜様成
 押あ〜〜をさくち〜〜をさく〜様成
 象〜〜をさく〜〜をさくハ様成
 象〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 象〜〜をさく〜〜をさく〜様成

士朗
 椿堂
 蟹守
 斗入
 羅城
 玉屑
 文左
 日人

をさく〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 本〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 と枝枝の〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 夕〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 昔〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 梅〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 梅〜〜をさく〜〜をさく〜様成
 又〜〜をさく〜〜をさく〜様成

真貫
 葵
 柳莊
 定雅
 雪雄
 蒼虬
 逸彦
 昔里

名所卷

命あつて妻あつたのの地

白雄

東ふふあきとて静あり

月居

あつたのまゝありては静あり

昔里

あつたのまゝありては静あり

塊菴

遅櫻

あつたのまゝありては静あり

昔里

あつたのまゝありては静あり

月居

あつたのまゝありては静あり

椿胎

あつたのまゝありては静あり

樗堂

題不知

あつたのまゝありては静あり

昔里

あつたのまゝありては静あり

道彦

董

あつたのまゝありては静あり

閑更

あつたのまゝありては静あり

樗良

あつたのまゝありては静あり

士朗

あるまふ平一あまそ董ちりき
徒一と也拵一芒の卜きこれ
恥不付くを伏えあよりち董
かられても在ぬち董ハまを
志回一りやあぬのまを人

道彦
護物
孤山
鳶笠
昔里

山吹

山吹や孫もた流をむのつを
芋汁よひまの吹のあつめ

閑更
曉暮

山吹や孫もた流をむのつを
流のあをれ山吹のうつりか
山吹平まをまをち静あり
やまの吹やまの吹をち静

し二
昔里
蛙文
道彦

藤

春まはえ木おとや藤の花
源氏おとあめく夏のまう

蓼太
几董

とつよのつも藤ありしや夏の

昔三

あけきかつしあゆむを藤のま

アキ 月長
篤老

暮春

初春や探野とうもむのま

葦村

鳥りしむの書りや三月を

几董

ふあひの鳥さひしやまのま

昔里

りまや脊戸門あきてまのま

道彦

障よる松のものさし三月を

蟹守

夏部

更衣

吹くは衣あつしや更衣

夢太

まきさしむらんのあふま

樗良

玉川の流うけくまをあらん

曉臺

森くえれを夏のうら後分

閑更

更衣人のまをふれりまぬ

士訓

梅の葉し人月うれつ更衣

昔里

昔しのあまのやまのひこりしとく
あはれもくもあを詠むぬ男とあま
夕ぐれよなりとくあしむ川後
籠ふんとくあや後を詠とく
後とくくくあかあひぬ家のを
後とくくあはれとくあまのけあ

昔三
芝山
雪雄
蟹守
乙二
逸彦

四月 よろこぶるのあまのひこりしとく

五明

あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく

長髪
蟹守
護物
寫笠

不地帰 あまのひこりしとくあまのひこりしとく

あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく
あまのひこりしとくあまのひこりしとく

閑更
樗良
麦水
曉基

夢ちり時ニぬえりほるる人

夢太

昔ちりかちりこころいふあめ

昔里

鳴物くちききききしほるる人

完来

社給ききききききききき

岳轍

ちりくちりくちりくちりくちり

成美

ちりくちりくちりくちりくちり

長壁

大穴くちりくちりくちりくちり

蟹守

ちりくちりくちりくちりくちり

椿堂

ちりくちりくちりくちりくちり

車池

又ちりくちりくちりくちりくちり

雪雄

ちりくちりくちりくちりくちり

葵

ちりくちりくちりくちりくちり

共成

武義ちりくちりくちりくちり

黒澤

ちりくちりくちりくちりくちり

文圃

かちりくちりくちりくちりくちり

椿胎

あめちりくちりくちりくちり

真洞

みよちりくちりくちりくちり

長島

ふめゆあらん自車の月夜系
蕉雨
春さるやあめくさく時を
道彦
ゆきやふあまをこりあれり親
士朗

閑古鳥

あの後かれよとなくらふあぢを
青羅
竹まきしあきるし宿かんこ
蓼太
疎鼓多眠をたふさう櫓の更
閑更
榊柳乃ちあらし里やあぢを
涼体
布敷多啼やあきまじりあぢ
曉臺

あぢをたふさうあぢあぢの申
士朗
あのをち平し何れあぢをかんこ
若里
枯枝よとあらしをたふさうあぢを
岳輅
閑古鳥あぢよかてあぢあぢあぢ
護物
あぢあぢあぢあぢあぢあぢ
雪旌
何あぢあぢあぢあぢあぢあぢ
カヒ
あぢあぢあぢあぢあぢあぢ
太奉
あぢあぢあぢあぢあぢあぢ
何頼
あぢあぢあぢあぢあぢあぢ
斗入

糸をたれやまのほくしを家名を

蟹守

たもつとむあつたれつ閑たると

送彦

三月月や何あふあふかんこを

椿堂

邪代あたとつあつて家名を

椿胎

陸鼓をさつとあつておとあを

成美

初子 地元のほくしを消せや初子

葛里

親うらうらつてあつてあつてあつて

葛里

苗唄ふ幸もあつてあつてあつて

送彦

廿一つれとひつてあつてあつて

蟹守

よきあつてあつてあつてあつて

蕉雨

灌佛 不持堂ついであつてあつて

夢多

漢佛や外のあつてあつてあつて

素染

漢仏のほくしや牡丹よあつてあつて

葛里

漢佛とあつてあつてあつてあつて

有斐

父母とあつてあつてあつてあつて

卓池

カ

牡丹

牡丹のふりかへりあまのち牡丹系
 ちかちかふりかへりあまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系
 牡丹牡丹あまのち牡丹系

牡丹とく門はらむ七なり那
 一体の毒いふまふり牡丹系
 ちかちかふりあまのち牡丹系
 みくちかちか牡丹のあまのち
 牡丹とく門はらむ七なり那
 一体の毒いふまふり牡丹系
 ちかちかふりあまのち牡丹系
 みくちかちか牡丹のあまのち
 牡丹とく門はらむ七なり那
 一体の毒いふまふり牡丹系
 ちかちかふりあまのち牡丹系
 みくちかちか牡丹のあまのち
 牡丹とく門はらむ七なり那
 一体の毒いふまふり牡丹系
 ちかちかふりあまのち牡丹系
 みくちかちか牡丹のあまのち

車両
 道彦
 嵐外
 乙二
 嵐外
 嵐外
 嵐外
 嵐外
 嵐外
 嵐外
 嵐外

芥多味やまのつひよき物の家
あしはか人月うき物あてはし
詠あしよのいふあし芥よのあま

葛里
蟹守
椿堂

杜若
善ふさとあまあありかたのた
こまねやましくあしく杜若

夢太
曉臺

山改ましくあま打あまあ
るあしあましくあま杜若

葛里
道彦

かまのつてあま不二のうけ持く
杜若をのこまうあまありて
あまあまのあまあま

椿胎
蟹守
素葉

笋

竹のあま一板あまのうき持
笋あまあまあまあま

曉臺
涼傘

笋ふよりのつれは井のあ
竹のあまあまあまあま

雪雄
井眉

舟ののちよこまきおんともうのふ
まじりのあやこもまきおんともうのふ
舟ののち牡丹あまはさるる

椿船
成美
蒼乳

松魚
あけほのゑてまきおんともうのふ
ゆりりのあまはさるる初松魚
ほろりのあまはさるる初松魚

涼床
蓼太
曉臺

ぬまのゑおん松をほろりと初松魚

卓池

胡瓜とく苗てあまはさるる初松魚
その松魚ぬまをほろりと初松魚

道彦
葛里

卯の巻
卯のおおかやゆき暮のまじり

曉臺

卯の巻とく苗てあまはさるる初松魚
卯のおおかやゆき暮のまじり
あまはさるる卯のおおかやゆき暮のまじり

士朗
葛里
道彦

夏末

夕げ入すはるや涼しき末
かゝ印よ契ある寺やまを

関更
夢太

柳よ何となくもまを
はくしよふ終ふあそびも
風届りや嬉しきあそびも

盤守
漢物
寫笠

茂

夢とて淡のささやけの
夢とてく鳥すまひの

士朗
寫笠

あしよふなりく茂や磐の

道彦

短夜

月と月夜をみしう秋とあけたり
人喜ばやむとささの月夜

曉基
夢太

みしう秋の満月かきつる

し二

短夜やこれむしうあそび

葛里

こしう秋や大空の青さ

道彦

短夜を末とられぬの

漢物

菖蒲

長くし習ふうげくの菖蒲うつそ

白旗

かゝる川に流るる菖蒲の

蓼太

いふあふ流るるかたしあわめ

首里

今のちや世き一とふあ菖蒲の

蟹守

あひあひあわちやあひあわ

道彦

粽

きしとや男はちとくそ粽

蓼太

粽とげの流るる菖蒲の

曉臺

あつあつの流るるあひあわ

首里

あつあつあつあつあつあつ

日人

帷子

新戸出や帷子とむき木の子

篤老

帷子あつあつあつあつあつ

柳莊

かゝるの襟むつとやあつあつ

護物

あつあつあつあつあつあつ

蓼松

五月雨

五月の如きものありて後志の如

曉臺

きしれやふゆのなきを竹たより

樗良

作つし書きよきこと五月の如

蓼太

五月の如きものありて後志の如

カヒ
漫々

ししれやふゆのなきを竹たより

京
車蓋

五月の如きものありて後志の如

護物

五月の如きものありて後志の如

蟹守

蚊

蚊の如きものありて後志の如

曉臺

蚊の如きものありて後志の如

蓼太

蚊

蚊の如きものありて後志の如

園更

蚊

蚊の如きものありて後志の如

涼傘

蚊

赤毛の蚊は草の根に
小庭や鹽とこれ蚊の
蚊の心は株を食てふつのは

蒼虬
道彦
長翠

蟪

蟪の音は秋の蟪を人
蟪の色の蟪を人
蟪の音を人
蟪の音を人
蟪の音を人

葛老
長翠
友國
日人
蟹守

蝸牛

ありとげを約てありし
ありとげを約てありし
ありとげを約てありし
ありとげを約てありし
ありとげを約てありし

葛三
葛里
椿堂
道彦

虫

虫の音は川を
虫の音は川を
虫の音は川を
虫の音は川を
虫の音は川を

大森
虫

子のさふ巻とて遊人旅長か 葛生

虫

中流川や昔曾のそむきあふ巻 栲良

行ふ千一歩のそむきあふ巻 夢太

やあゆむぬれあふ巻 園遊

いふそむきあふ巻 曉臺

流泉ささふ巻のそむきあふ巻 乙二

かゝれぬ巻のそむきあふ巻 羅城

水雞

そむきあふ巻のそむきあふ巻 蟹守

静のそむきあふ巻のそむきあふ巻 道彦

花のそむきあふ巻のそむきあふ巻 昔里

水雞のそむきあふ巻のそむきあふ巻 曉臺

蘭田川のそむきあふ巻のそむきあふ巻 夢太

そむきあふ巻のそむきあふ巻のそむきあふ巻 栲良

水のそむきあふ巻のそむきあふ巻のそむきあふ巻 道彦

こまごまのつらつら

苜里

きりくつらつら

未粧

まのつらつら

蟹守

廉子

あやあや

曉基

あやあや

苜里

あやあや

護物

白合

あやあや

凍帝

あやあや

曉基

あやあや

苜里

あやあや

蟹守

あやあや

道彦

百合

あやあや

蒼虬

あやあや

蟹守

志神

とまねまの山ぬれ物に
志くまのくまは
物つげく物いふ年平のくま

真洞

蛙文

江戸
久蔵

若竹

若竹を月夜に
くまや今とくま

暖巻

関更

山形やまのたのむと年竹

嵐外

鶉

くまのくまのくま

鶉笠

あつとくまのくま

蘭更

くまのくまのくま

蓼太

くまのくまのくま

完来

くまのくまのくま

乙二

括られくまのくま

道彦

物めくまのくま

岳輪

小毎ふく舞千一えまの物めつれ	篤光
あまのこぞん千一うらふま物うふ	雪雄
研ふの物ふあけらそ務めあふ	蟹守
岩根ふあふまき物守出物守	苜里
あゝ徳や月ああそまあじ	蓼太
あゝぬふあふふし青嵐	園更
えんあつ陸ふけえむさうま嵐	嵐外

産を控へ驚ふさうりやまの風	護物
押へさあかへ驚ふまあらし	尊笠
夏月	
えんあつ陸ふけえむさうま嵐	涼成
まの月流のさうままみのあふ	園更
とあふふあふあふあふあふ	成美
草あふあふあふあふあふ	苜里
山田あふあふあふあふあふ	月居

追ふゆへに寄入るるはまの目
又命の初まあつるまゝをまねる
蟹守
士朗

雲峯

明けそちのいふはまの目
久くそなたあつる日ありや
夢多
曉基

此の月おれしあつるはまの目
昔里

名角しつあつるはまの目
成美

夕立

あつるはまの目
素稜

夕立の雨つとあつるはまの目
蟹守

あつるはまの目
應く

あつるはまの目
士朗

竹婦人

竹婦人あつるはまの目
涼本

竹婦人あつるはまの目
曉基

あつるはまの目
夢多

静とふ人眼くまのり竹婦人
竹婦人みまの心をたふさし
拙ふのまよほしや竹婦人
アキ 夏雲
全 風部
蟹守

梅子 拙ふれやうのまよほし
道彦 昔三

夢生もやふと一しとまのまの深
ふと一とふとけしきかぬかあり
昔里

夕良 夕良は名や門田乃の庭屋と
夢太

ゆの形やむのあひあうとらと
曉基

夕良や活ももむれほのうねる
夢松

ゆの形やあひあう人のもの
蟹守
夕良のまよほしや竹婦人の
對山

合歌 静とふふきをむあむらう全歌のま
昔里

まの形の人まのまのまのまの
蛙文
甲まのまのまのまのまのまの
寫笠

納涼

梅もろく心地をまされ夕もきみ

橋良

涼しきやちかあはれきくまの風

夢太

切も舟はあふ對しそんはほし

蘭更

きしききききききききききき

素染

涼しきふふふふふふふふふふ

蟹守

みふこらん涼しききききききき

乙二

きしききききききききききき

桐栖

涼しきやちかあはれきくまの風

道彦

人そび涼しきききききききき

對山

息のききききききききききき

篤老

きしききききききききききき

葛里

涼しききききききききききき

星北

園麻

涼しききききききききききき

夢太

芝琳のふききききききききき

士朗

藤原のついでに藤原のついでに

道彦

暑

押さのあまのそ人の暑の那

尊笠

異々やふもふ物れりのまをれ

椿胎

暑々やまをれくお人のまを

尊里

清水

了柄扱の湯きまの清水

陶更

汲く初れ命よかふる若清水

曉誓

扇もくそをらうすまの若清水

羅城

おふふふふふふふふふふ

尊笠

雲采珠もそをらうすまの若清水

漢物

蓮

蓮はふあふれや蓮のあまの

曉誓

あまのあまのあまのあまの

陶更

朝あふふふふふふふふふ

道彦

坂のあまのあまのあまのあまの

久臈

杉杉を立紅さすは白ひび
卓池
をしつふまのいんあふ山田うふ
篤老

輝
ち川輝やあつとれくの里近の杭
関更

せみ鳴く梢のかり川落あきり
曉基

樹啼やあつとれくの里近の杭
葛里

山せみあつとれくの里近の杭
琴松

あき管の泣きあつとれくの里近の杭
蟹守

去月の橋よりあつとれくの里近の杭
道彦

題不知
風号りく月あつとれくの里近の杭
戸一 咏

ふ月やあつとれくの里近の杭
野山
あき管の泣きあつとれくの里近の杭
介亭

御稜葉輪
涼しくあつとれくの里近の杭
葛三

あき管の泣きあつとれくの里近の杭
有斐
あき管の泣きあつとれくの里近の杭
仙市

かゝるをきく風の吹芽の輪分
みだりふくぬき芽の輪分
高里

俳諧新五百題

田喜庵獲物栞 新板
全令舎道彦園 小本六冊二卷

此書をわし朗吟村成美道彦乃 洪先生より
はるせん世よきそよよ人 其佳句を採りてあつむ
又世よきそよよ人 其の句の若かりしものハ採りて
と代の為句と大成せんとせん九題とせんやとせん
あよ及り志りれ今四とよほく五百題也
なつく大才はあ 俳諧初の人 其の句の若かりし
富田とせん又かくくくくく 俳 物あり

